

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100279		
法人名	医療法人宮永内科クリニック		
事業所名	グループホーム自由ヶ丘		
所在地	宮崎市吉村町井出ノ中甲793番地1		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanitrue&JiyosyoCd=4590100279-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は出勤時、帰る時利用者様の顔を見て挨拶するように心がけている
また、職員は常に遊び心を持ち、笑顔を絶やさないようにしている
理念にも掲げているように、とにかく職員も利用者も「明るくいいききのびのびと」生活でき、いつでもどこからか笑い声が聞こえ、安心して穏やかに暮らしていけるように力を入れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはデイサービスと併設され、開設後、8年を経過している。管理者と職員は「明るく生き生きのびのびと暮らそう」を理念に掲げて、利用者の思いに寄り添いながら、初詣や花見、また、誕生日の祝いとして利用者の希望するドライブや外出をするなど、利用者本位の支援に取り組んでいる。開設以来地域の自治会に加入しており、文化祭には利用者と職員と一緒に作り上げた作品を出品したり、地域ボランティア活動も積極的に受け入れて利用者とのなじみの関係を構築している。地区サロンの依頼で嚙下体操の出勤指導を担当するなどもしている。また、重度化や終末期についても指針を作成し、医療連携を取り、対応できる体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げ、理念に基づいて、職員も年間目標をたて、実現できるように実践につなげている。	「明るく生き生きのびのびと暮らそう」と理念を掲げて、毎月の職員会議の中で話し合いながら、その理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区ボランティアの方(歌・傾聴)の訪問を頂いている。また、地区文化祭などに作品を出展したり自治会総会・サロンなどで交流を深めている。	地区の自治会に加入し、ボランティア活動を受け入れ毎月歌の指導をしてもらったり、地区サロンからは週に1回の嚙下体操の依頼があり、出前指導を行うなど、地域と積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会のサロンに出向いて、認知症予防体操や踊りなどを行う機会が増えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・地域包括支援センター・家族代表を交え、現状活動報告を行っている。顔を合わせる機会が増え、積極的な発言が多く上がるようになり知識を得る事も多くなった。	地域の有識者や家族代表の参加が定着し、意見交換が活発になってきている。年に1度、母体法人の理事長の講話を取り入れており、推進委員から好評を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に、運営推進会議に出席頂いて、現状や取り組みなどを報告し、必要時には助言をいただいている。	市主催の研修会に積極的に参加して、協力関係を築くように取り組んでいる。管理者は、必要時には担当課に相談して、助言や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に対し正しく理解し、ケアの実施の際に疑問に思う時は、意見を出し話し合うようにしている。センサーマット使用の方も、出来ることは任せ、すぐには訪室せず、外で見守り、さりげなく訪室出来るようにしている。	管理者は職員に外部研修を受講する機会を設け、受講した職員は職員会議の中で伝達研修を行い、全職員が身体拘束の弊害を学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、研修会に参加し、学んだことは伝達講習を行い、職員の意識と知識を高めるように努めている。テレビや新聞で得た新しい情報は、話題に出し、意見を聞いたりして意識付けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の機会があるときは、出席し学ぶ機会を作るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ゆっくり、わかりやすく説明を行うように心がけ、家族の不安や疑問点には、納得が行くまで説明を行った上で署名して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や担当者会議、また面会時でも意見・要望・苦情等をお聞きし、気軽に意見を頂けるよう心掛けている。広報『自由ヶ丘だより』を発行し、利用者様の様子をより知っていただくように努力している。	家族の来訪時に茶を出し、コミュニケーションを図りながら意見や要望を聞くよう努めている。出された意見や要望は職員会議の中で話し合い、改善に努め運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や、面談を通じて、意見・提案を聞き、職員間で話し合ったり、上司と相談するなどして反映させている。	職員の意向や意見について話し合いを行っているが、管理者が答えられない場合には事務長に相談し、改善に向けて運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告や、個々の職員との面談等を通じ、状況の把握に努めている。職場環境の整備は、積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で発表出来る事を目標にして、3部署内で合同発表会を開き、外へ向けて発信していくトレーニングに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入り、その中で勉強会の参加や交流会を通じて、ネットワークづくりを行い、情報交換等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の変化を見て、職員やご家族等周りと情報交換と情報の共有を行いながら、協力・関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	夕方遅くでも、不安な事や相談事などあれば、いつでも寄り易い雰囲気作りや、面会時にはコミュニケーションを取り真摯に向き合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が希望している事に添えるか、カンファレンスも行い、実行出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・利用者・家族が同じように、愚痴や励まし合ったり出来、日々の暮らしの中でも変化があり、笑顔で接せるよう関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊や家族介助など、家族の絆も大切に、家族の負担にならないよう、コミュニケーションも重視した環境作りも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年にわたり続けている生活習慣を大切に、家族の協力に感謝し、面会時にも心地よい時間が持てるように雰囲気づくりにも努めている。	家族や友人、親戚が来訪した時は、茶の提供をしてゆっくりとくつろげるよう努めている。また、家族の電話を受け取ったり、家族と外食に出掛けるなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	双方の立場も考えながら、出しゃばらない様になっている。一人が孤立しそうな時は、さりげなく声をかけて雰囲気を和らげるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	納涼祭の案内状を送ったり、季節の葉書を出すなど、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの要望や、だんだんと出来る事も少なくなってきたが、利用者の何気ない言葉や行動から感じたり、家族からの情報などを職員で共有しそれに少しでも添えるようにしている。	利用者の何気ない言葉や行動を察知して、好物の食べ物を提供したり、ドライブを兼ねて花見等に出掛けている。また、家に帰りたいたい時には家族の協力を得て、思いをかなえるように本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からこれまでの生活歴は聞き、なじみの暮らしに近い環境が、長く続けて行けるように家族も巻き込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り表で、職員の誰が見ても一目でわかるようにしている。休み明けの職員にも前後にあった出来事も添えた送りも行き、続けた支援が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を取り入れ、ケア会議等で話し合いを行っている。また、毎日の暮らしの中で気になる事、課題などがあれば、当日の職員で、ミニカンファレンスを行い反映出来るようにしている。	利用者本位の介護計画となるよう、本人・家族・担当の職員が話し合いながら、アイデアを生かしたプランを作成している。プランの見直し・モニタリングも適宜行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の言葉や、その時の行動は細かく記入し、それを基に考えられることや、気づき出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家電の持ち込みや、付添い、携帯電話など、これまでにない変化があり、家族や、事業者とも話し合い、家での暮らしに近い環境作りを始めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア、長年にわたり続いている歌の練習、地域の方も参加した行事も関係性が出来、のびのびとされ、楽しみの一つになっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の家族との受診や往診等、医師から伝えられる結果の把握と、指示は、迅速に介護に導入している。利用者から医師に意見の言える関係も見られるようになっていく。	従来からのかかりつけ医との関係を大切にして、受診の際は生活ぶりについて情報の提供を行い、関係を大切にしている。夜間の往診や歯科、皮膚科医の往診も受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に何らかの変化が見られた時は、迅速に報告し指示を受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員も交代で顔を出したり、利用者に安心感が持てるようにしている。利用者の状態や得た情報は共有している。退院を迷っていた家族との話し合いの場を作り、施設でも対応出来ると判断し早期退院に繋がった。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態は主治医に報告、指示を受けながら対応している。家族へも主治医から現状を説明してもらい、理解された上で、家族の意向も聞き、介護方針も共有している。	利用開始の早い段階で終末期のあり方について本人・家族と話し合いながら方針を共有している。主治医やかかりつけ医、母体病院と医療連携を図りながらチーム支援に取り組んでいる。看取りの実績もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故の際のマニュアルを作成している。急変した利用者の状態は、対応した職員から細かく聞き、記録や申し送りも見直し、よりよい対応が出来るようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯や夜勤帯を想定し、年2回、地震や火災訓練をしている。地区・民生委員の方の参加や、運営推進会議時にも報告し意見交換も行っている。職員が受けた訓練も参考にしたりしている。	年2回、夜間想定を含む防災避難訓練を実施している。地区の民生委員や運営推進会議のメンバーの参加協力体制を築いている。防災備蓄の準備もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族に、どう呼んで良いか聞いたうえで、名字や、ちゃん付けなどで、対応する場面で呼び方を変えている。	利用者の人格を尊重しながら優しい言葉掛けや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行きたい所や、したい事の要望には、あらかじめ準備や、用意を行い、散歩やドライブにも添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを計画的に立てておられる方には、好きなように時間を使っていただき、レクリエーションなどは、前もってお知らせしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る物に迷われている方には、アドバイスしたり、気温や季節に合わせて、衣替えをしたり体形や年齢に合った装いができるようにしている。2ヶ月毎のカットも取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、お好み焼きや、ホットケーキ作り、下膳など、得意な事や出来る事は、力が引き出せる様な声掛けをしている。	食材の切り込みや利用者の得意とするゴボウのささがき等、職員の見守りの中で持てる機能を引き出しながら支援している。職員と利用者は同じ食事を同じテーブルでとり、会話を楽しみながら食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示がある方は、指示量を出している。一日のチェック表を見ながら、少ない方には、好きな物を、飲めないときは容器を変えたりし、こまめに出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方にも舌もできているか磨き残しの声掛けや、歯科との連携も取り入れ、その人に合ったケアが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者に合ったトイレの時間間隔を把握し、声掛けや誘導をしている。また、身体状態に応じて、トイレでの排泄を促し、パットの交換をしている。	排せつチェック表を活用して昼間はトイレで排せつできるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけトイレでの排泄を心掛け、便秘の方は、利用者に応じて、緩下剤や座薬で調整している。水分摂取量や、運動にも気配りしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、利用者の希望を汲む努力をしている。食事の進み具合や、体調などを考慮しながら、介助者が判断している。ゆず湯なども行い、季節を感じて頂いている。	利用者の介護度が上がるにつれて浴槽をまたぐ動作が困難となり、改装し、リフト浴で入浴を支援している。夏季は週3回の入浴であるが、冬場は2回としている。毎日の入浴を希望する利用者もいる。	利用者の希望に沿う入浴支援ができないか、検討することを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足の浮腫みの軽減を図るため、臥床時に30分の下肢挙上などを行っている。また、眠気や疲労の見られる方等居室で休んでもいただき、心地よい休息や、衣類、寝具調整にも気配りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲み忘れがないよう、職員二人以上での確認を徹底している。利用者に合った内服薬の処方出来るよう、受診、往診時には、利用者の状態も報告したり、相談したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会やレクリエーション活動、貼り絵、塗り絵、食材切など、出来る喜びを引き出している。たまに飲酒される利用者にも、スタッフもノンアルコールで同席し、雰囲気作りをしたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周りでの日光浴や草花や稲の成長を見たり、キャベツ畑を歩いたり車椅子散歩などを行っている。また、家族による散歩、ドライブ、外食などもあり、家族の協力も大きい。	遠出の外出は年間計画を立てて利用者の希望を聞きながら、花の時期に合わせた外出をしている。誕生日のプレゼントとして、ドライブに行きたいと希望があれば出掛けることもある。日常的には近隣を散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が直接貰われたお金は、自分で管理され、外食や祝い事などに使われている。必要以外のお金や個人で管理できない分は、金庫にて預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声を聞き安心される方もあり、いつでも話が出来るようにしている。家族から電話をかけてもらい話をして頂いている。なじみの方にハガキを書かれる方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態により座る場所を変えたり、照明や空調の調整をし、音楽を流したりして、落ち着ける空間作りをしている。玄関の花の植え替えなどをし、季節も感じ取れる様にしている。	共用空間には季節の花を飾り、掃除も行き届いており、清潔に保たれている。リビングは、利用者と職員で作った作品を要所に展示し、テレビやソファもあり、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳で寝転んだり話をしたり、洗濯物たたみや得意な食材切りを楽しまれたり出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の意見を聞き、居室でも家で暮らしていた生活に近づけられる様、家電の持ち込みや家族との時間が持てるような配慮をしている。	家族と話し合いながら、使い慣れた寝具や調度品、位牌などを持ちこんでもらい、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。家電の持込みもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすの方も自走出来る幅を守り、一人でも行きたい方向に動けるように安全面には気を付けている。		